

令和2年7月20日（月曜日）



【7月豪雨】足立敏之議員が被災地視察／「緊急対策の継続実施を」



落橋した西瀬橋の状況を視察する足立議員

自由民主党の足立敏之参議院議員は、7月11日から16日にかけて熊本県と岐阜県内の「令和2年7月豪雨」被災地を視察した。被災自治体の首長からは、早期の激甚災害指定や仮設住宅の設置、河川・道路の災害復旧促進などに加え「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の継続実施を求める要望が相次いだ。足立議員は、緊急対策を実施したことによって被害を免れたところもあるとし、新たな中長期的な計画づくりや対策メニューの増加も含めた事業継続の必要性を強調している。

今回の視察のうち、熊本県人吉市では5m以上の浸水被害を受けた中心街の九日町商店街や球磨川沿いの温泉街、落橋した西瀬橋、楼門・拝殿まで浸水した国宝の青井阿蘇神社などを訪れた。また土砂災害が発生した熊本県津奈木町、芦北町、八代市では、国土交通省のTEC-FORCEや警察・消防・自衛隊に加えて、地元建設業者が応急対応等で活躍する姿を確認した。岐阜県では下呂市と高山市を結ぶ、重要な道路である国道41号が約300mにわたって流出した現場などを視察したほか、県や地元首長、建設業協会などと意見交換を行った。

7月豪雨で未曾有の被害が発生した熊本県の球磨川が流れる人吉盆地は、球磨川本川と川辺川の合流点にあって水が集まりやすく、下流が狭窄部となっている。川辺川ダムの中止により、現在は「ダムによらない治水」の検討が進んでいるが、今回の災害を受けて流域の市町村長や議会関係者からは、抜本的な治水対策の要望が寄せられた。

国交省で川辺川ダムを前提とする河川整備基本方針策定などに携わってきた足立議員は「今一度、原点に戻ってダムも含めて改めて検討する必要がある」とし、地元の意見も聞きながら早期に結論が出るよう支援する考えを示した。